

に涉りて神戸労働者大會は開かれたり。参加團體は神戸造船労働組合(舊神戸支部)、神戸鐵工組合(舊尻池支部)、東神鐵工組合(舊荻合支部)、神戸電氣工組合(舊正會)、神戸鐵道工組合(舊須磨支部)、神戸印刷工組合、友愛會關西労働同盟會等なり。参加六組合を一瞥する時、正會は新興組合にして未だ形式的に神戸聯合會に所屬せずと雖も不日其然るべきは當然の事實とせられ、印刷工組合亦神戸聯合會に屬せざるも、是れ會費の都合上より來れるものにして労働總同盟友愛會には既に加盟しあれば、如上六個の組合はともに友愛會の傘下にある組合なりと云ふを得べし。

關西労働同盟會傘下の六組合は在神戸友愛會系組合の全部なると共に又在神労働組合の全部なりとも稱することを得。而して其主催する四回の労働者大會は、藤永田造船所の争議(主體大阪造船労働組合)を援助するため寄附募集をなすを目的としたりしが大阪に於ける十有六回に亘る同盟罷工は何れも毎回労働者側の成功を見たりとして神戸の労働者が自ら眩惑的熱情を感ずるに到りしこと又否むべからず。労働者に昂奮あり。而も他の一面に幹部の庶幾する處大阪の幹部と同一なりとせば、戦機を誘起さるゝ自然の數ならずとせず。四回の大會を觀察して、労働者の昂奮の累進的状態を見ること左の如し。

第一回大會(六月八日於港川勸業館)關西労働同盟會長須々木順一氏(川崎造船所職工)を座長に推し、印刷工組合副組合長三谷幸吉氏左の宣言及決議を朗讀す。

宣 言

苦惱の裡に我等は今度の恐慌を忍んで來たが、財界の不況は今や益々我等の生活を脅すことになり、我等は解雇手當の心配をせねばならぬことになつた。之れ我等の同志が繁に罷工する第一の理由である。

然し政府は悟らず、民衆は目醒めず我等は尙暗黒と不安の中に捨てられて孤影淋しき彷徨者として失業の苦境に泣く。此苦境を脱れ得る唯一の道は無産の労働者が團體として資本主義に打衝かることである。

即ち此失業苦の尤も多く叫ばれて居る時に團體交渉權の絶叫される所以である。然るに何ぞや、官憲は事理を解せず團體交渉權解雇手當より起る罷工をたゞ一種の煽動より起る罷工と解し遂に大阪藤永田造船所の同胞四千が一齋に起ち上がるや幹部全部を検束し剩へ友誼團體の幹部までも理由なく検束した。

考へ見よ、明治大正の憲政行はれて以來、人民は憲法の保證するところによりて結社と言論の自由を保證せられ居るではないか。何故に直接罷工に關係なきものを檢束するか。呼。日本の自由は何處に消えたか。肥へたるものは守られ、飢えたるものは檢束せられて豚箱に投ぜらる。何處に人道の片影を認め得るか。

故に我等は此處に宣言す。

警察は厳正中立たるべし。

團體交渉權は天下の大道なり。

決 議

一、我等は大阪藤永田造船所職工に同情す。

二、我等は大阪府警察が藤永田造船所争議の際に採りたる行動を正義に背反するものと認む。

三、我等は團體交渉權を要求す。

右の如くして大會はに行政長藏、野倉萬治、柴田富太郎、三谷幸吉の四氏を實行委員として指名し